

- P1 株主のみなさまへ
- P3 工事実績のご紹介
- P4 技術のご紹介
- P5 財務情報
- P7 上半期トピックス
- P9 CSR活動の取組み

ごあいさつ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当上半期(平成24年4月1日～平成24年9月30日)の我が国経済は、東日本大震災の復興需要等を背景とした緩やかな回復基調にあるものの、欧州諸国の財政・金融不安を背景とした不安定な為替動向や、中国及び新興国の成長鈍化、長期化する円高などの影響を受け、景気の減速懸念が顕著になってきております。

このような経営環境のもと、当上半期における当社グループの業績は、売上高は完成工事高の増加により2,128億円と、前年同期比17.1%増加となりました。利益面につきましては、手持工事の採算が悪化したことにより144億円の営業損失となり、投資有価証券評価損の計上、当社の繰延税金資産の全額取崩しにより、338億円の四半期純損失となりました。

以上のように、当上半期決算は誠に遺憾な結果となりました。皆様には心よりお詫び申し上げる次第でございます。なお、通期の業績予想につきましても193億円の営業損失を見込んでおり、385億円の当期純損失となる見通しであります。

今般、こうした事態を重く受け止め、本年5月に発表しました中期経営計画の見直しを実施いたしました。まず、緊急施策として、選別受注による採算性の向上、工事管理体制の改善、コスト構造の見直しを通じて、来期の利益確保を確実なものとしてまいります。次に、中期的施策として、事業規模を追う「個別案件志向」から、顧客との関係を深める「ソリューション志向」への脱皮を図り、建設ライフサイクルの各段階において継続的に収益を確保してまいります。具体的には「中規模案件への経営資源シフト」「竣工後のアフターケア事業の強化」「国内建築事業を補完する収益基盤の構築」の3点を基本戦略に据えて取り組んでまいります。

本計画に基づき構造改革を進め、全グループをあげて中長期経営ビジョンの実現に取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

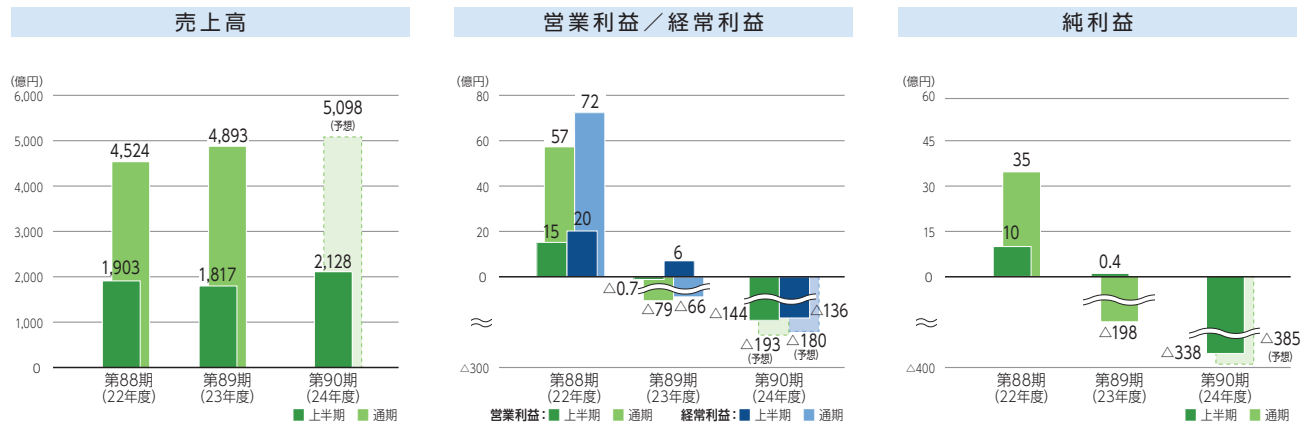


平成24年12月

代表取締役社長

井上 三

財務ハイライト(連結)



セグメントの概況

事業の種類別セグメントにおける業績は、以下のとおりとなっております。

■ 建築事業

売上高は1,705億円(前年同期比15.0%増)、セグメント損失(営業損失)は124億円(前年同期は32億円のセグメント利益)となりました。

当社個別の受注高につきましては、民間工事(国内)、官公庁工事(国内)、海外全てにおいて減少し、全体では1,153億円と、前年同期比33.7%減となりました。

■ 土木事業

売上高は368億円(前年同期比25.9%増)、セグメント利益(営業利益)は1億円(前年同期は7億円のセグメント

損失)となりました。

当社個別の受注高につきましては、官公庁工事(国内)は前年同期比42.5%増となりましたが、民間工事(国内)が前年同期比41.3%減となり、全体(海外含む)では345億円と、前年同期比9.5%増となりました。

■ 不動産事業

売上高は73億円(前年同期比27.1%増)、セグメント利益(営業利益)は12億円(前年同期比29.8%増)となりました。

■ その他の事業

売上高は6億円(前年同期比4.1%減)、セグメント利益(営業利益)は3百万円(前年同期比95.5%減)となりました。

工事实績のご紹介

当上半期の完成・受注工事

当社では、機能性や品質に優れ、安心・安全で、環境に配慮した建設物を実現することで、建設業としての企業の社会的責任を果たしています。当上半期における主な完成・受注工事をご紹介します。

問屋町西部南街区第一種市街地再開発事業 施設建築物新築工事



工事名称	問屋町西部南街区第一種市街地再開発事業 施設建築物新築工事
工事場所	岐阜県
発注者	問屋町西部南街区市街地再開発組合
竣工月	平成24年8月
工事概要	床面積55,415.44m ² 東棟:RC造 地上37階 地下2階 店舗・事務所・分譲住宅270戸 西棟:S造 地上11階 地下1階 店舗・事務所・ホテル154室 駐車場棟:S造 地上6階 自走式7フロア 409台
用途	集合住宅・ホテル・事務所他

大和御所道路池之内高架橋下部工事



工事名称	<small>やまとごせ</small> 大和御所道路池之内高架橋下部工事
工事場所	奈良県
発注者	近畿地方整備局
竣工月	平成24年7月
工事概要	工事延長 L=550m RC逆T式橋台2基 RC張出式橋脚36基 RCラーメン式橋脚2基 鋼管ソイルセメント杭326本
用途	道路

■ 当上半期における主な完成工事

- ・日本赤十字社 和歌山医療センター新棟建設及び既存棟改修工事
- ・(株)カインズ 新本部ビル新築工事
- ・東日本電信電話(株) (仮称)NTT東日本研修センター宿泊棟新築工事
- ・(医)弘遠会 (仮称)すずかけセントラル病院新築工事
- ・(学)金沢工業大学 23号館講義棟新築工事
- ・大阪広域水道企業団
配水管布設工事φ1350(バイパス・堺市)2工区

■ 当上半期における主な受注工事

- ・(株)ヤクルト本社
中央研究所 第2期工事 医薬品・化粧品研究棟新築工事(B工区)
- ・(学)獨協学園 (仮称)獨協医科大学教職員宿舍新築工事
- ・社会医療法人 母恋 天使病院新築計画II期工事
- ・国立大学法人香川大学 香川大学(医病)病棟等新築その他工事
- ・(学)東洋大学
東洋大学附属姫路高等学校創立50周年記念校舎(仮称)建設工事
- ・首都高速道路(株) (改関負)王子南出入口下部・石神井川付替(その5)・街路工事
- ・四電エンジニアリング(株) 白糖太陽光発電所建設工事(土木工事)
- ・東京都下水道局 南元町幹線工事

快適な音環境を提供する戸田建設の技術

当社は皆様に安心・安全で快適な生活をご提供できるよう、技術開発を行っています。
当社が提供する音響関連技術の一部をご紹介します。



快適な音環境をつくる音響・騒音対策技術

最先端の新研究施設「音響実験棟」の建設

近年、音環境に関するお客様からの要求品質が高まっており、様々な建物の施工においてより高い音響性能が求められるようになってきました。音楽ホールや学校、集合住宅、工場等の施設毎に、意匠性、施工性、コスト等を考慮しつつ快適な音環境を提供する必要があります。そのため、当社では技術研究所内において最新鋭の音環境実験施設である「音響実験棟」を完成させました。この業界最大級の音響実験施設は、浮き構造を有する大型無響室、残響室と箱形床衝撃音実験室を備えています。

音楽ホールに代表される音楽主体の部屋では、音が十分かつ適切な音量で聞こえ、心地よい響きとなることが重要です。一方、議場や会議室では、音の明瞭性を重視するため、響きを抑えた内装仕様が要求されます。また、ホテル・集合住宅の床衝撃音、壁・窓を透過した騒音、複数の音源がある工事騒音・工場騒音等は、その伝搬経路やメカニズムが複雑であり、その対策も一様ではありません。

当社では、このような様々な室内音響や騒音の対策の効果について、音場・騒音統合シミュレーションシステムや施設での実証実験で確認することにより、お客様に快適な音環境を提供しています。



音響実験棟の外観



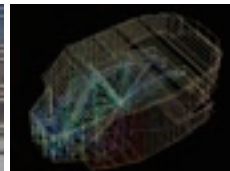
無響室



残響室



無響室において音楽ホールの客席模型を使った実験状況



音楽ホールの3次元音響シミュレーション

財務情報

第90期上半期決算情報

第90期上半期連結業績ハイライト

連結損益計算書のポイント

(単位:億円)

	前上半期		当上半期	
	金額	利益率 (%)	金額	利益率 (%)
建設	1,762		2,059	
不動産等	55		68	
売上高 計	1,817		2,128	
建設	97	5.5	△ 47	△ 2.3
不動産等	15	27.7	16	23.3
売上総利益 計	112	6.2	△ 31	△ 1.5
販売費及び一般管理費	113		112	
営業利益	△ 0	△ 0.0	△ 144	△ 6.8
営業外収支	7		8	
経常利益	6	0.4	△ 136	△ 6.4
特別損益	△ 6		△ 31	
税金等調整前四半期純利益	0		△ 167	
法人税等	△ 0		170	
四半期純利益	0	0.0	△ 338	△ 15.9

Point 1

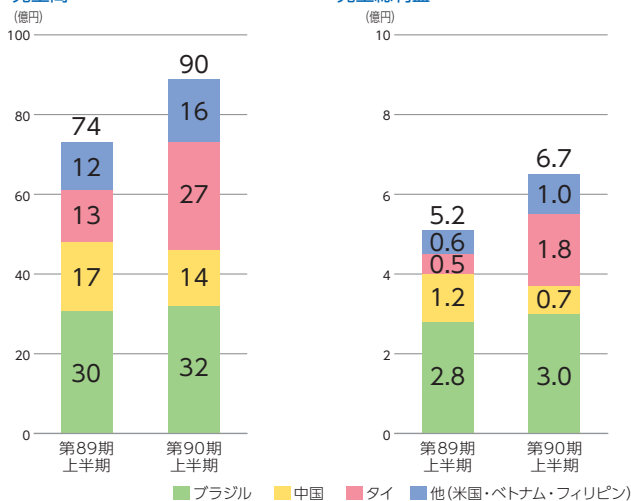
工事採算の悪化と税金費用の増加

主要事業の建設事業において完成工事高は増加しましたが、労務費等のコスト増による購買差損等により、手持工事の採算見込が悪化したため、当上半期は31億円の売上総損失となり、144億円の営業損失となりました。

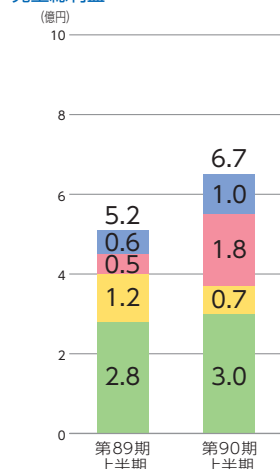
また、特別損失に投資有価証券評価損36億円を計上し、業績の大幅な悪化を受け、当社の繰延税金資産を全額取崩したため、法人税等の費用が増加したことにより、当上半期は338億円の四半期純損失となりました。

海外現地法人の業績

売上高



売上総利益



Point 2

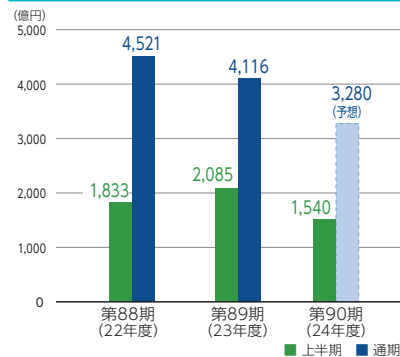
海外子会社の状況

成長戦略の一環として海外事業を強化しており、平成27年度の海外売上高300億円程度を目標に事業を展開しております。

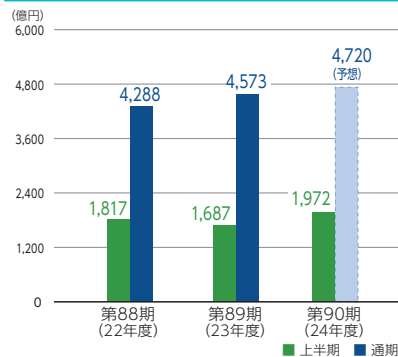
当上半期では、ブラジル及びタイの現地法人における売上高が増加したことにより、売上高合計は90億円(前上半期比22.0%増)、売上総利益合計は6.7億円(前上半期比28.5%増)となりました。

第90期上半期個別業績ハイライト

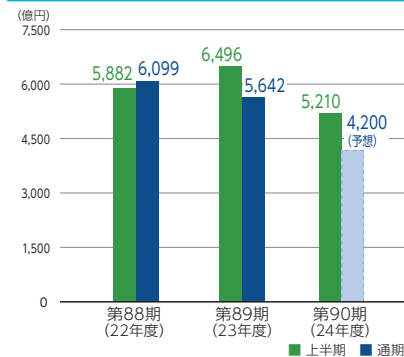
受注高(個別)



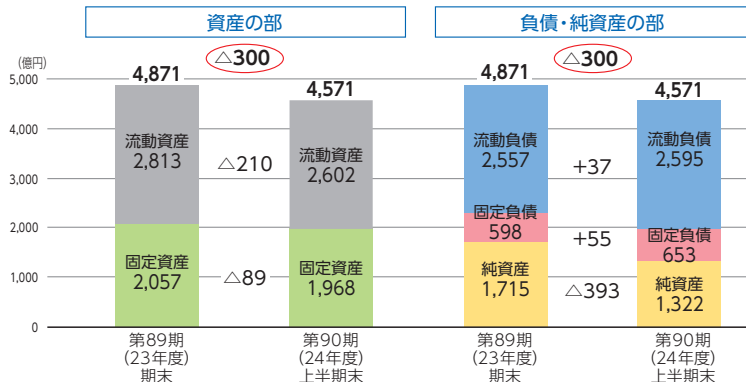
売上高(個別)



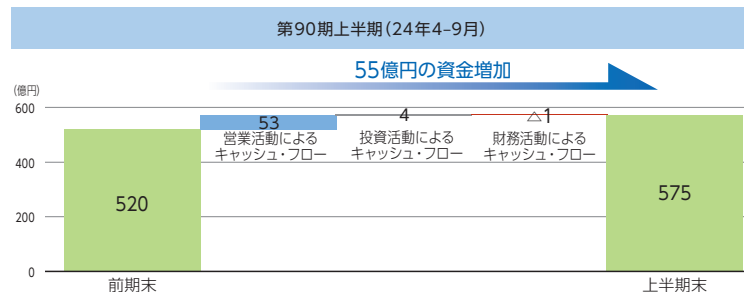
繰越高(個別)



連結貸借対照表のポイント



連結キャッシュ・フローのポイント



Point 3

総資産の状況

有価証券(譲渡性預金)が80億円、未成工事支出金が142億円増加したものの、受取手形・完成工事未収入金等が363億円、繰延税金資産の取崩しが101億円、保有株式の時価の下落により投資有価証券が89億円減少したことなどにより、当上半期末における総資産額は4,571億円(前期末は4,871億円)となりました。

Point 4

純資産の状況

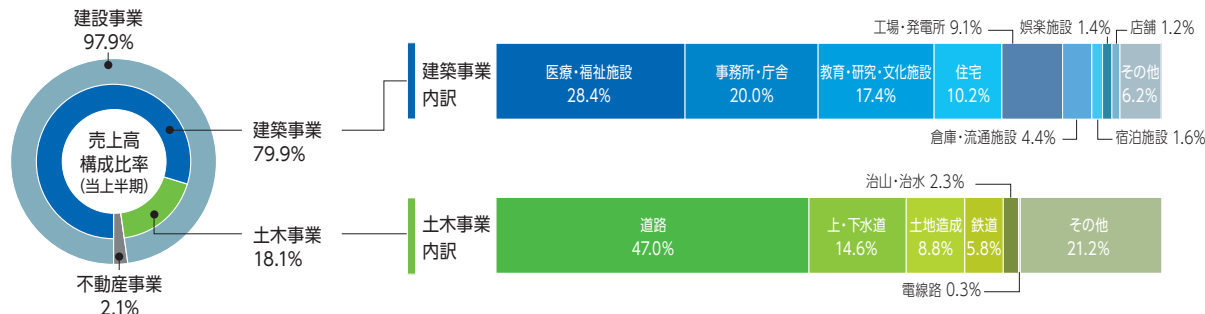
当上半期における四半期純損失338億円及び期末配当金18億円の支払いにより利益剰余金が354億円減少しました。また、保有株式の時価の下落に伴うその他有価証券評価差額金の減少36億円等により、純資産は1,322億円となり、自己資本比率は、28.0%(前期末は34.4%)となりました。

Point 5

連結キャッシュ・フローの状況

税金等調整前の四半期純損失が167億円となりましたが、工事収支は127億円収入超となったことなどにより、営業活動としては53億円の資金増加となりました。また、投資活動としては有形固定資産の売却等により4億円の資金増加となり、財務活動は1億円の資金減少となりましたが、当上半期末における現金及び現金同等物は前期末に比べて55億円増加して575億円となりました。

事業種類別 売上高構成比率(個別)



4月

千代田土地建物株式会社が創立50周年を迎えました

当社グループの千代田土地建物株式会社（昭和37年設立）は4月2日に創立50周年を迎えました。

初代社長に就いた戸田利兵衛（当時戸田組（現戸田建設）会長）は、その創業の精神として「トータルソリューションカンパニー」を目指しておりました。当時からLCC（ライフサイクルコスト）において維持・管理費用が大きく影響することに着目し、当社が施工した建物の経済効果を一層高め、永く管理運営するために、同社をグループ内において不動産や保険代理業から営繕・メンテナンスを担う部門として位置づけました。

今日まで当社において育まれた力を生かし、当社グループは、建設ライフサイクル全般におけるトータルソリューションカンパニーとして、今後とも独自の強みを発揮し、より深く、より長くお客さまに貢献してまいります。

5月

100kW風車を搭載した 浮体式洋上風力発電施設の洋上設置に成功

当社が代表を務める環境省浮体式洋上風力発電実証事業委託業務の受託者グループは、系統連系を行う浮体式洋上風力発電施設としては国内初となる

100kW風車を搭載した浮体式洋上風力発電施設の長崎県五島市杵島周辺海域での洋上設置を6月9日～11日に実施し、これに成功しました。我が国における浮体式洋上風力発電の早期実用化に向けて、引き続き、本事業に鋭意取り組んでいきます。



環境省浮体式洋上風力発電実証事業

受託者グループ

戸田建設株式会社（代表）、株式会社日立製作所、芙蓉海洋開発株式会社、国立大学法人京都大学、独立行政法人海上技術安全研究所

6月

「リオ+20」ジャパンパビリオンへ出展

当社は6月13日～24日の期間にリオデジャネイロ（ブラジル）で開催された「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」のサイドイベント「リオ+20」ジャパンパビリオンに唯一の日本のゼネコンとして出展しました。

「リオ+20」は1992年に同地で開催された「地球サミット」から20年を迎えた節目に、今後10年の経済、社会、環境のあり方を議論した国連会議です。当社では、現地法人であるブラジル戸田建設株式会社を中心となり、日本国内における低炭素社会に向けた取り組みを紹介しました。



RIO+20
United Nations
Conference on
Sustainable
Development



JAPAN
GREEN
INNOVATION

「簡易型の建物診断モニタリングシステム」で減災提案

当社のBCP（事業継続計画）の核をなす技術として、大地震時の建物の被災度を即時評価する「簡易型の建物診断モニタリングシステム」を開発し、当社技術研究所（茨城県つくば市）にある実大規模の試験体を用いて検証実験を実施しました。

今後、建築物のBCPの観点から、建築物に損傷を与えるような巨大地震の発生に備え、超高層建築物をはじめとし重要度の高い病院建築、生産施設、避難場所として重要な公共施設などへの減災対策として積極的に技術提案を行っていきます。



7月

CO₂濃度センサーを用いた 最適換気制御システムの実験に着手

当社は、株式会社村田製作所が開発中の「CO₂濃度センサー」を使用して、換気制御システムの高性能化を図る実証実験に着手しました。当社技術研究所内において、省エネ・節電効果の確認を含めた換気量の最適制御を検証するための共同実証実験に取り組んでいます。また、当社本社ビルにおいて「CO₂濃度センサー」を組み込んだシステム模型を展示し、最適換気制御システムとしてお客様への提案を行っています。



8月

「つくばちびっ子博士2012^{*}」で技術研究所を施設公開

当社は、地域貢献活動の一つとして「つくばちびっ子博士」に毎年協力しており、本年は8月3日(金)に施設を公開しました。建設会社の技術研究所としては唯一の参加となります。つくば市内を中心とした地域の小中学生(保護者合計120名)が訪れ、6つの施設・技術を見学しました。

例年公開している「音場・騒音統合シミュレーションシステム」、「超高強度コンクリート」、「屋上ビオトープ」に加え、今回は実大振動試験装置による「地震・風による建物の揺れ」、音響実験棟の「無響室による試聴体験」、「ホテル飼育ビオトープ」といった新しく整備した施設も見学の対象となりました。

当社では、子どもたちに建築技術の楽しさを伝え、将来にわたる建設業への関心を育めるよう、今後も「つくばちびっ子博士」に協力していきます。



^{*}「つくばちびっ子博士2012」(主催:つくば市、つくば市教育委員会):
夏休みの期間(7月21日(土)~8月31日(金))、小中学生が特製のパスポートを持って、つくば市内の各研究機関等の展示やイベントなどを見学・体験しながら回るスタンプラリー。集めたスタンプの数に応じて「つくばちびっ子博士」認定証と記念品がもらえます。



川俣町過疎型スマートコミュニティ構築事業スタート

当社は福島県川俣町と、川俣町復興計画(第1次)に基づき、上記事業をスタートしました。7月24日付けで、事業可能性について調査を進めていくための検討委員会を立ち上げて取り組んでいます。その発足に先立ち、6月22日には川俣町と当社との間で「スマートコミュニティの実現可能性を調査するための業務協定」を締結しています。

木質バイオマス^{*}、太陽光、風力あるいは小水力による発電などの再生可能エネルギーを導入し、事業として運用していくことで産業の創出と雇用の確保を行い、自然と産業が調和したスマートコミュニティを推進します。まず今年度は事業計画及び調査業務を行っていきます。

用語▶ 木質バイオマス発電

再生可能な樹木由来の有機性資源(間伐材・落ち葉など)を燃料として電力を生み出すこと。

高性能防音壁の開発

当社と学校法人関西大学は共同で、関西大学・河井康人教授(環境都市工学部 建築学科)が提唱する防音壁の騒音低減効果向上に関する理論を、建設現場に設置する仮囲いに適用し、実大実験においてその効果を確認しました。

この成果を基に当社は、従来よりも低くて軽い高性能遮音壁を開発しました。騒音低減策として3mの仮囲いの上にさらに3m分を継ぎ足す場合に比べ、コストの低減、設置スペースの省面積化などのメリットがあります。また、建設現場の周囲に与える圧迫感の低減にもつながります。

今後、建設現場への適用に向けた改良を加え、騒音の低減対策手段の一つとしてお客様へ積極的に提案していきます。



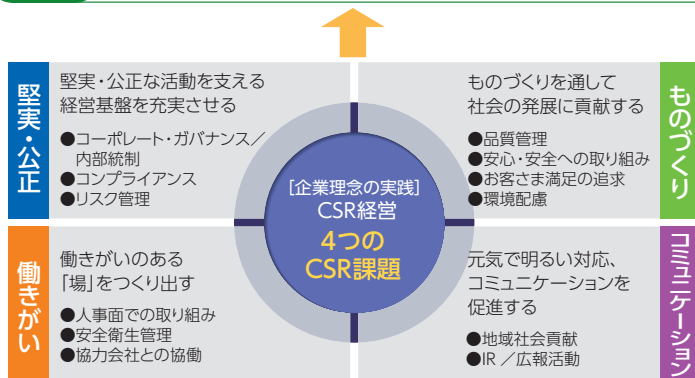
CSR活動の取組み

戸田建設では
4つのCSR課題を設定し、
理想の会社像を目指しています。

理想の会社像を目指す上での課題と、ステークホルダーの皆さまの期待や要請とを照らし合わせ、「堅実・公正」「ものづくり」「働きがい」「コミュニケーション」を『4つのCSR課題』として設定しています。

当社は、この一つひとつに真摯に取り組んでいくことで、安全で豊かな、そして持続可能な社会づくりに貢献していきます。

理想とする会社像 働きがいがある、元気で明るく、堂々として、品格のある会社



地域防災に関するステークホルダーダイアログ※(座談会)を開催

平成24年6月6日(水)、本社におきまして中央区、中央警察署、京橋消防署、京橋一丁目東町会および当社の防災担当者が出席し、地域防災に関する座談会が行われました。当社は日頃から本社ビルのある東京都中央区京橋一丁目地区で住民の皆さまや行政と一体となった防災の取り組みを進めてまいりましたが、今回は関連する地域の人々にお集まりいただき、「地域と協働して首都直下型地震に備える」というテーマのもと意見を交わしました。その中で、東日本大震災を経て顕在化した課題として、中央区における帰宅困難者対策、警察署における災害時交通渋滞対策、消防署における災害時火災予防策、町会における高齢居住者避難対策などが取り上げられ、その解決に向けた取り組み状況や今後の展望が話し合われました。

今回の取り組みを通して、地域防災において企業が果たすべき責任の重大さについて、改めて実感することができました。今後の活動の改善に結び付けてまいります。

※ステークホルダーダイアログ:企業を取り巻く利害関係者との対話

◆平成24年度京橋地域総合防災訓練



はしご車による救出訓練

戸田建設自衛消防隊の演技

「戸田建設CSR報告書2012」を発行いたしました

当社はCSR(企業の社会的責任)に対する考え方や方針、取り組みをより多くのステークホルダーの皆さまにご理解いただくとともに、CSR活動のさらなる充実を図ることを目的に活動報告を行っています。

報告媒体を「冊子」「ウェブサイト」「データシート」に分け、ステークホルダーの皆さまに分かりやすい構成としています。

詳細はWEBサイトからご確認ください。

<http://www.toda.co.jp/csr/>



■ 会社概要

(平成24年9月30日現在)

● 主な事業所等

本店(東京都中央区京橋一丁目7番1号)

支店

- ・東京支店(東京都中央区)・千葉支店(千葉市)
- ・関東支店(さいたま市)・横浜支店(横浜市)・大阪支店(大阪市)
- ・名古屋支店(名古屋市)・札幌支店(札幌市)・東北支店(仙台市)
- ・広島支店(広島市)・四国支店(高松市)・九州支店(福岡市)
- ・国際支店(東京都中央区)

技術研究所(つくば市)

子会社

- ・戸田リフォーム(東京)
- ・シブコー工業(東京)
- ・アペックエンジニアリング(埼玉)
- ・千代田建工(東京)
- ・戸田道路(東京)
- ・千代田土地建物(東京)
- ・八千代アーバン(東京)
- ・戸田ファイナンス(東京)
- ・東和観光開発(広島)
- ・千代田スタッフサービス(東京)
- ・戸田アメリカ
- ・戸田ブラジル
- ・戸田上海
- ・タイ戸田
- ・戸田ベトナム
- ・戸田フィリピン
- ・ABTD(フィリピン)

(注)シブコー工業および八千代アーバンは清算手続中です。

● 従業員の状況

従業員数 5,170名(連結) 4,110名(個別)

● 取締役および監査役

代表取締役会長	加藤 久郎	常勤監査役	戸田 守道
代表取締役社長	井上 舜三	常勤監査役	野々口 悦生
代表取締役	白井 正幸	監査役	鍛冶 良明
代表取締役	野村 昇	監査役	鈴木 勝利
代表取締役	鞠谷 祐士	監査役	秋草 史幸
取締役	戸田 秀茂		
取締役	山下 雅己		
取締役相談役	岡 敏朗		

- (注) 1: 監査役鍛冶良明氏、鈴木勝利氏および秋草史幸氏は、社外監査役であります。
2: 監査役鍛冶良明氏は東京証券取引所および大阪証券取引所が指定を義務付ける一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員であります。

■ 株式の状況

(平成24年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 759,000,000株
- 発行済株式の総数 322,656,796株
- 株主数 12,883名
- 大株主

	株主名	持株数(千株)
	大一殖産株式会社	36,400
	戸田順之助	31,022
	ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー) サブアカウント アメリカン クライアント	24,335
	株式会社三菱東京UFJ銀行	11,496
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	11,077
	ノーザントラストカンパニー エイブイエフシー リューエス タックス エグゼンプテッド ペンション ファンズ	9,689
	戸田守二	9,607
	株式会社みずほ銀行	7,107
	三宅良彦	7,087
	ビービーエイチ493025ブラックロック グローバルアロケーションファンドイング	6,840

(注)上記のほか当社所有の自己株式11,315千株があります。

■ 株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

配当金受領株主確定日 3月31日

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL.0120-232-711(通話料無料)

上場金融商品取引所 東京証券取引所、大阪証券取引所

公告の方法 電子公告により行います。
公告掲載URL <http://www.toda.co.jp/>
ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

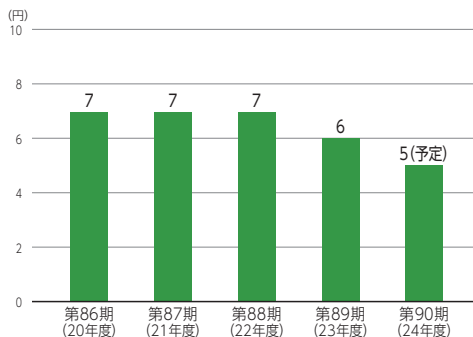
株主還元について

利益配分に関する基本方針及び当期の配当

当社は、株主の皆様への継続的な安定配当の実施と、競争力および財務体質の強化に不可欠な内部留保の確保を勘案の上、業績および経営環境に応じた利益配分を行うことを基本方針としております。

当期の1株当たりの年間配当金につきましては、業績の大幅な悪化という状況を勘案しつつも上記の方針を踏まえて、前年の実績より1円の減配となる1株当たり5円を予定しております。

1株当たり配当金推移



株主優待制度のご案内

当社では毎年9月末時点の株主名簿に記載または記録された1単元(1,000株)以上保有の株主様を対象に、株主優待を実施しています。

■ 優待内容

当社グループが保有・運営する「ホテル&リゾート サンシャイン サザンセト」(山口県大島郡周防大島町)の株主優待券を贈呈いたします。



割引率

平日(日曜日～木曜日)	正規の宿泊料金より30%割引
休前日(金曜日・土曜日・祝前日)	正規の宿泊料金より20%割引

※ キャンペーン商品は対象外

■ ご利用方法

- ご予約の際に優待券面に記載された番号をご連絡ください。
- 株主優待券1枚につき1回あたり1室のご利用ができます。
- 本制度の対象となる客室は1日あたり5室までといたします。



発行基準

所有株式数1,000株以上5,000株未満	2枚
所有株式数5,000株以上	4枚

戸田建設株式会社

〒104-8388 東京都中央区京橋一丁目7番1号
TEL.(03) 3535-1357
<http://www.toda.co.jp/>

戸田建設

検索



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。